宇都宮市都心部グランドデザイン

～21世紀における都心部再生のシナリオ～

平成１４年８月

宇　都　宮　市

目　　次

Ⅰ　策定の目的　……1

Ⅱ　都心部の活性化　……2

　1　将来の宇都宮のまちづくりと都心部の在り方　……2

　2　都心部の現状・活性化の必要性・課題　……3

Ⅲ　都心部の目指す姿　……6

Ⅳ　都心部の地区別整備の方針　……10

Ⅴ　全体整備スケジュール　……14

Ⅵ　戦略プロジェクトの抽出・実施　……15

Ⅶ　都心部グランドデザインの効果的推進に向けて　…20

1　策定の目的

都心部は今，社会経済環境の変化や市民意識の多様化などにより，時代の転換期にあり，都心部が今後どうあるべきか，どう整備すべきかが宇都宮市の発展において重要な意味を持っている。

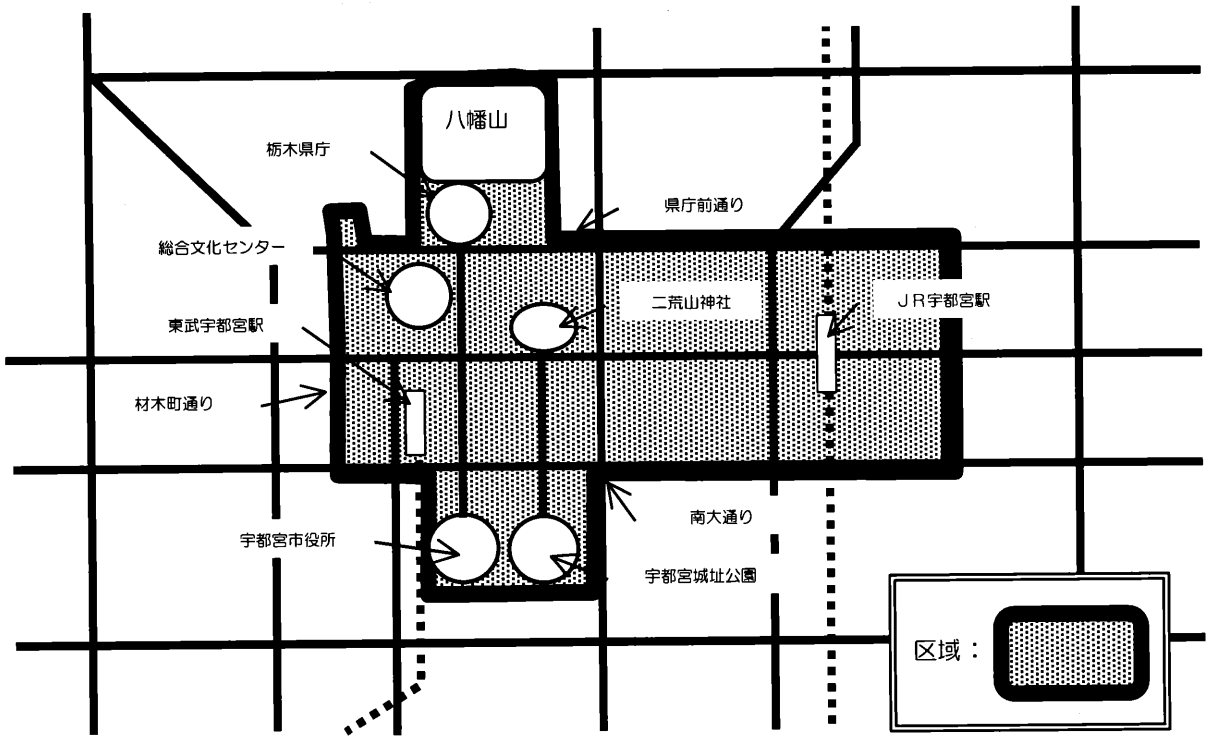
現在，本市の心臓部である都心部は，「賑わいと回遊性のある都心部の復活」，「自動車に依存しない交通体系の確立」，「まちの顔となるシンボルづくり」，「居住しやすい環境づくり」など，多くの課題を抱えている。

これらの課題は，緊急に解決していかなければならず，そのためには，市民等に対して将来のビジョンを示し，ビジョンの考え方，方向性に基づき，各種の事業を適切に実施していかなければならない。

本市では，平成１１年３月に「宇都宮市中心市街地活性化基本計画」を策定したところであるが，今回，この基本計画を基に，より具体的な都心部（中心市街地）の姿，そのための戦略的事業等の大枠を示した「都心部グランドデザイン」を策定するものである。

今後，このグランドデザインに基づき，２１世紀における新たな都心部の再生に向け，行政をはじめ，市民，地元住民，事業者，宇都宮まちづくり推進機構，宇都宮商工会議所等の関係機関等の共通の理解を図りながら，各機関等が主体的役割と相互連携のもとで施策事業を実施することにより都心部を活性化していく。

〈図１　都心部の範囲（３２０ha）＞



II 都心部の活性化

1 将来の宇都宮のまちづくりと都心部の在り方

２０世紀は「都市化の時代」といわれ，２１世紀は「都市の時代」「都市間競争の時代」といわれる。こうした中，都心部の問題，交通の問題，環境の問題など宇都宮が抱える課題をどう解決していくかがこれからの発展のカギとなる。

宇都宮市は，古くは「門前町，宿場町，城下町」として栄えてきたが，現在は，自律性ある「中核都市」，「栃木県の中心都市」，「広域都市圏の中心都市」として，都市の発展を牽引している。

構造的には，東北新幹線，ＪＲ宇都宮線，東武宇都宮線の鉄道網，東北自動車道や北関東自動車道等の広域交通網，更には，東京圏から東北・北海道に向かう新たな国土軸（北東国土軸）と，太平洋から関東内陸部や日本海方面に向かう軸（首都圏大環状連絡軸）との結節点としての重要な要衝地に位置している。

本市においては，こうした有利性を最大限に生かすため，今後とも，都心部を中核に，ＪＲ雀宮駅周辺地域，テクノポリスセンター周辺地域を含めた３核構造で，それぞれの役割と連携をもとに，都市機能の集積，広域交通軸や東西骨格軸の形成，南北骨格軸の強化等を図っていかなければならない。

そうした中，これからの都心部は，多くの人が集まる都として，多くのものや情報が賑わう市として，そのための多くの機能が集積された地区である必要がある。

このためには，「市民の高次で多様な生活や活動の拠点」，「業務活動における高次で広域的な拠点」を基本として，「商業・業務・行政機能の集積地」，「市民生活や娯楽・交流の中心地」，「市民の活力やまちの個性を代表する顔」，「全国・世界に情報発信するネットワークの先端地」など，「ひと，もの，情報が多様に交流する多機能型のコンパクトな都心部」でなくてはならない。

2　都心部の現状・活性化の必要性・課題

２１世紀の都心部の在り方を受け，具体的なグランドデザインを描くにあたり，都心機能の面から，「商業・業務機能」，「交通機能」，「生活環境機能」，「居住機能」から見た現状，市民ニーズ等からの活性化の必要性を踏まえ，構造面を中心とした課題を抽出する。

（１）商業・業務機能からの現状・活性化の必要性・課題

（現状）

○商業（売上高等）の衰退
　・来街者の減少，空き店舗の増加，郊外での大型ショッピングセンター立地等
○商業環境の変化
　・宮環の開通，大型店の撤退，商店の老朽化等
○経済のサービス化の進展
　・企業の支店の撤退・統合，産業支援サービスの未成熟等

必要性

（課題）

○商業機能の再編
　・「もの」から「総合的サービス提供」への転換，商店の個性化，商業機能と交流機能の融合等
○商業環境の改善
　・回遊ゾーンと都市景観の形成，交通アクセスの確保，再開発等
○多様な産業交流の充実
　・技術・商品開発力ある地域内発的な企業の育成，大企業と中小企業，大学等との連携

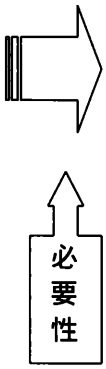
（活性化の必要性）

・都心部は，商業販売額の２４％（平成９年商業統計調査）を占める。
本市の商業振興の牽引役として，集積力の高い都心部の商業の活性化を図ることが，本市全体の経済の振興に必要である。
・都心部の商業は，都心部の人口減少，郊外移転等の影響により衰退傾向にある。しかし，市民が都心部に求める，期待する機能のトップは，商業であり，付加価値の高い商業に期待している。
・市民の消費性向は，日常生活品は近くの店で，嗜好品・贈答品・食事等は高級・専門店でへと二極化している。買回り品やトレンド品等の個性・特色ある商品は，多様な選択性（遊びとショッピングの複合等）があり，専門店等が集積（豊富な品や多様な情報等）している都心部で展開していくことが必要である。
・都心部に立地している多種多様なサービス業が，異業種間で情報，技術を交換し，交流を活発化していくことが，本市経済産業の活性化に必要である。

（２）交通機能からの現状・活性化の必要性・課題

（現状）

○自動車中心の交通
　・交通渋滞，鉄道・バス利用者の減少，駐車場の不足等
○JR 駅東西交通の不便性
○都心，内環状線幅員の狭隘さ



（課題）

○自動車依存型からの脱却
　・公共交通機関（都市新バス，新交通(LRT)等）の整備，自動車流入抑制，効率的駐車場整備等
　・歩行者・自転車ネットワーク形成等
○幹線道路・交通結節点の整備

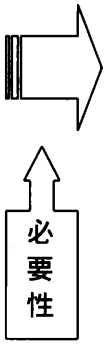
（活性化の必要性）

・都心部が活性化するためには，来街者の足を確保し，効率的な経済活動を支えるための交通基盤整備が必要である。
・来街者が都心部内を快適に回遊し，目的を達成するためには，各交通手段（鉄道，バス，自転車）の持つ特性を生かした整備，ネットワークが必要である。

（３）生活環境機能からの現状・活性化の必要性・課題

（現状）

○都市的イメージの希薄
○低い緑・水と都心空間の融合性
○ゆったり歩ける空間や魅力ある街並みの欠如
○文化，情報環境が未成熟
　・高次な文化施設，情報発信機能が弱い
○高齢社会に対応したハード面の未整備



（課題）

○シンボルづくりと機能的な都市空間形成
　・歴史的文化と現代的文化が融合した都市軸，広場空間の形成
　・釜川，八幡山等の整備，活用
　・歩行者ネットワークの形成等
○文化，教育等の交流機能の充実
　・文化・教育施設等の整備
○ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ等の推進

（活性化の必要性）

・まちには，市民の誇りとなる顔やシンボルが欠かせない。二荒山神社周辺や宇都宮城址公園等の整備を通し，歴史を生かしたまちづくりを進めることが市民に心の豊かさを与え，活性化に結びつく。

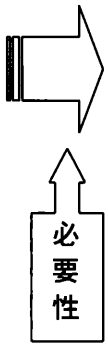
・都心部では，快適性や回遊性を図るため，釜川，八幡山公園等を整備してきた。こうした公共投資を生かし，今後も多くの市民のオアシス空間として維持していくことが必要である。

・すべての機能がコンパクトに集積している都心部は，市民生活や企業活動をする上で最も便利であり，この優位性を更に充実させていくことが必要である。

（４）居住機能からの現状・活性化の必要性・課題

（現状）

○都心部内での人口減少の進行
　・都心コミュニティの崩壊
　・少子高齢化の進行等
○無秩序な住・商混在の進行



（課題）

○都心コミュニティの再生
○多様な利便施設の立地
○都市型居住地の整備
　・良好な居住環境の保全と確保等
○土地利用ルールの確立
　・商業業務地区と住宅地区との適切な土地利用ルールの確立等

（活性化の必要性）

・居住人口の減少は，商店街の衰退，コミュニティの衰退，学校の統廃合，治安の不安など多くの問題が発生する。都心部を活性化させる上で，居住者の増加は不可欠である。

・都心部の高齢化率は，市全体１５％（平成 14 年 3 月現在）と比較し，２５％と高い。地区住民の福祉の向上を図る観点からも，公共公益施設を含む多様な利便施設の立地が必要である。

Ⅲ 都心部の目指す姿

1　まちづくりの視点

（1）都心部の目標

今後の都心部に必要なのは「賑わい」である。賑わいをもたらす要素には，「買う，味わう，学ぶ，遊ぶ，触れ合う，憩い安らぐ，住む，働く」などがある。これらは，これまで都心部で蓄積されてきた商業，歴史，文化，自然等の宇都宮らしさを生かしたイベントの開催や，回遊軸や空間の整備，良質な住環境の整備等と相まって一層の賑わいが実現される。

また，都心部には多様な魅力が必要である。都心部は，常に新しい情報があり，「意外性，刺激，新しいビジネスチャンス」などが得られる場所でなくてはならない。これらの魅力は，他地域では得られない複合的な機能の集積や競争があって始めて得られるものである。

こうしたことを踏まえ，２１世紀の都心部は，***「中核都市宇都宮にふさわしい賑わいと高次な都市機能を備えた多様性のあるまち」***を目標とする。

（2）都心づくりの方向性

目標を達成するのに必要な機能は，

・「中枢機能，交流機能，教育・文化機能，研究・技術開発支援機能，都市魅力に属する機能等の高次な都市機能」，
・「環境に配慮し，公共交通機関を中心とした交通網」，
・「歴史空間，緑地空間等を生かし，公共空間としての潤いと楽しさが感じられる都市空間」，
・「快適な居住空間，職住一体となったコミュニティの場」である。

この機能等を備えた都心部を実現するため，４つの都心づくりを進める。

○産業が活発に交流し，活気ある都心づくり
　２１世紀にふさわしい新たな産業の集積と魅力ある場の形成
○市民が豊かに生活し，交流し合う賑わいのある都心づくり
　中核都市の先進生活・文化都市として魅力ある市民生活交流の場の形成
○宇都宮らしい個性と景観のある顔を持った都心づくり
　歴史と風土，大谷石等の固有資源，自然や水辺を生かした宇都宮らしい個性と景観のある顔を持った場の形成
○高度な都市活動を支える都心づくり
　公共交通を中心とした交通・道路環境の整備，高度情報化社会に対応した情報基盤が整備された場の形成

2　都心部の構造

目標と都心づくりの方向性を受け，骨格となる都心部の構造を定める。

骨格づくりにあたっては，重層的かつ数珠上の都心部とするため，新たな概念として，中心地区及びＪＲ宇都宮駅周辺地区を「都心核」と位置づけ，都市核を結ぶ大通り沿線地区及び八幡山公園と宇都宮城址公園を結ぶ軸を「都心軸」と位置づけ，２つの拠点と２つの軸が連携し，都心部全体の一体的な発展を図る。

＜図２　都心部の構造図＞

（１）都心核構想

「高次な都市機能を備えた賑わいと多様性のあるまち」の実現に向け，「魅力ある都心部の形成をリードする中心地区＝センターコア」と，「北関東，更には全国的なネットワークの拠点としての役割を担うＪＲ宇都宮駅周辺地区＝ＪＲコア」を核に据え，先導的に多様な機能を導入する。

○センターコア

賑わいの拠点として，「商業機能」，「交流機能」の充実を中心に，新たに，「市民サービス機能」，「住居機能」等の集積を図る。

○ＪＲコア

新都市拠点として，「業務機能」，「情報機能」「交通結節機能」の充実を中心に，新たに，「コンベンション機能」，「産業支援機能」等の集積を図る。

（２）都心軸構想

この都心核の発展を支援し，支えるため，「東西都心軸」と，宇都宮の歴史・文化のシンボルとなる「南北都心軸」を整備する。

東西都心軸（高度な都心活動軸）

センターコアとＪＲコアの役割を生かし，宇都宮のメインストリートにふさわしい空間として整備する。

・中心軸である大通りへの新たな公共交通システムの導入によるセンターコアとＪＲコアの活性化と交通の円滑化

・大通り沿線を多様な業務活動地区として整備

南北都心軸（交流・シンボル軸）

八幡山公園と宇都宮城址公園との間を交流軸として，県庁と市役所との間をシンボル軸として整備する。

・市民の文化活動や交流活動を基盤として，二荒山神社，宇都宮城址公園，八幡山公園（競輪場を含む）に核施設等を導入し，それらを有機的に結びつけ，宇都宮の歴史と文化が融合した新しい都心の顔の形成

・県庁と市役所を結ぶ沿道について，公共機能，ファッション機能等の集積，誘導を図り，現代の宇都宮の顔としての空間の形成

（3）居住地区構想

都心核・都心軸の周辺地区は，人々の生活空間として，核・軸を支えるコミュニティ機能，生活サービス機能（保育施設，ケア施設等）を備えた都心部居住地区として整備する。

（4）交通，道路体系構想

都心部の空間は，自動車優先から歩行者優先空間として整備し，それに併せた公共交通や道路を整備する。

○歩行者空間の面的拡大

・既存道路や一方通行等を活用した安全で快適な歩行者空間の拡大

○都心内の移動手段の確保

・新交通システム，循環バス等の導入による人と環境にやさしい移動手段の確保

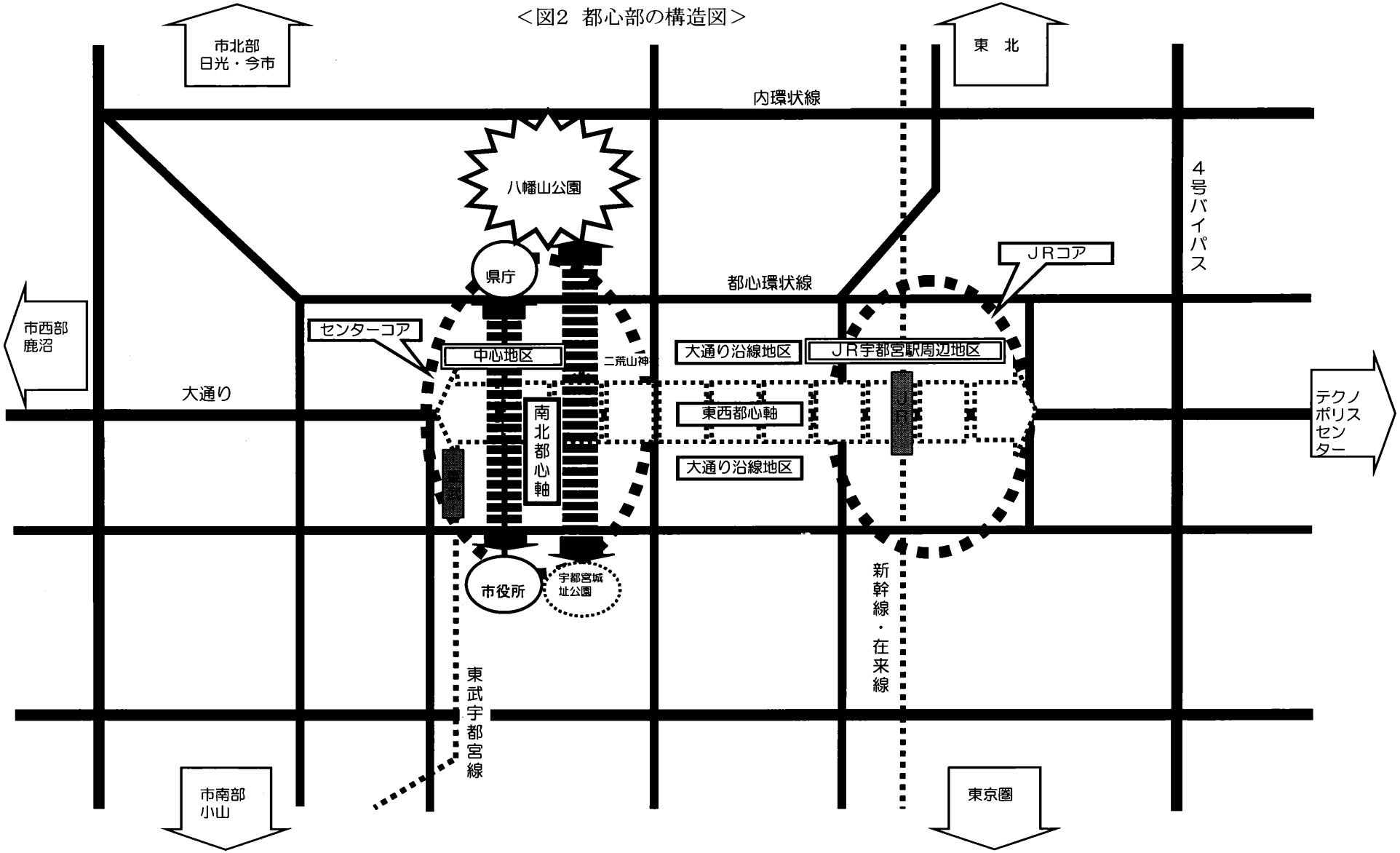
○駐車場の整備と適正配置

・都心環状線沿線への駐車場の配置・整備による都心部内での長時間駐車や車の流入の抑制

○都心の骨格となる道路の整備

・都心環状線など３環状線や都心へのアクセス道路の整備

<図2 都心部の構造図>


市北部
日光・今市
東　北
内環状線
八幡山公園
県庁
4号バイパス
ＪＲコア
都心環状線
市西部
鹿沼
センターコア
中心地区
二荒山神
大通り沿線地区
ＪＲ宇都宮駅周辺地区
大通り
南北都心軸
東西都心軸
ＪＲ
テクノポリスセンター
大通り沿線地区
市役所
宇都宮城址公園
新幹線・在来線
東武宇都宮線
市南部
小山
東京圏

Ⅳ 都心部の地区別整備の方針

1　地区別整備方針

都心づくりの方向性に基づき，都心核，都心軸を中心に地区別整備方針を定める。

＜図３　都心部地区図＞

（１）センターコア

○中核都市にふさわしい商業地の形成

・高度な商業機能，アミューズメント機能等が整備された多機能な商業ゾーンの形成　等

※アミューズメント機能とは，文化性や娯楽性を備え，親しみや楽しさを感じることができること。

○市民交流の拠点づくり

・多くの市民が集まり，賑わう交流の核としての大規模な広場空間の創出と地下空間等の活用，ファッション性豊かな都心環境の整備　等

○回遊性のある都心づくり

・魅力ある交流施設や広場，個性豊かな専門店等が配置された回遊性の整備，歴史や文化を伝える豊かな歩行者空間の整備，食・ショッピング・遊び・イベント等の都市観光資源の活用，継続的イベントの開催やイベント間の連携　等

○宇都宮の顔づくり

・交流軸とシンボル軸の整備，商店街のファサード整備を通した魅力的なまちなみの整備　等

※ファサードとは，通りに面した建物正面の外観

○新しい文化創造の場づくり

・宇都宮の歴史に触れ，先進的な文化に接し，市民自らが新しい文化を創り出す環境の整備　等

○都心のオアシスづくり

・公園や河川の整備を通し，水と緑がネットワークされた都心オアシスの創出　等

（２）ＪＲコア

○新都市形成を誘導，支援する拠点づくり
・ＪＲ宇都宮駅東口開発の推進による新都市拠点地区を先導，支援する公共施設や民間施設の誘導　等
○交通結節点としての拠点づくり
・ＪＲ宇都宮駅西口の再整備の推進による駅前（交通）広場の創出や市有地，低利用地の有効活用　等
○交通・情報サービスの拠点づくり
・広域的な交通・情報ターミナルの拠点としてのインフォメーション機能の整備　等

（３）大通り沿線地区

○都心核連携軸として，トランジットセンター（乗り継ぎ拠点）等が整備され，本社機能等が集積した高次な業務地区づくり

（４）都心部居住地区

○「良質な住宅の供給・誘導」，「土地区画整理事業，市街地再開発事業等を中心とした新しい都心居住地の整備」，「良好な住宅地としての道路，公園，福祉施設等の整備」等を通した快適な居住環境の整備

2　交通・情報基盤整備の方針

センターコア，ＪＲコア及び大通り沿線地区の都心軸の都市構造を支えるため，３環状線や１２放射状道路の骨格道路ネットワークの整備と，新交通システムや都市新バスシステムなどの公共交通ネットワークの整備を図るとともに，都市活動をサポートする情報ネットワークの整備を図る。

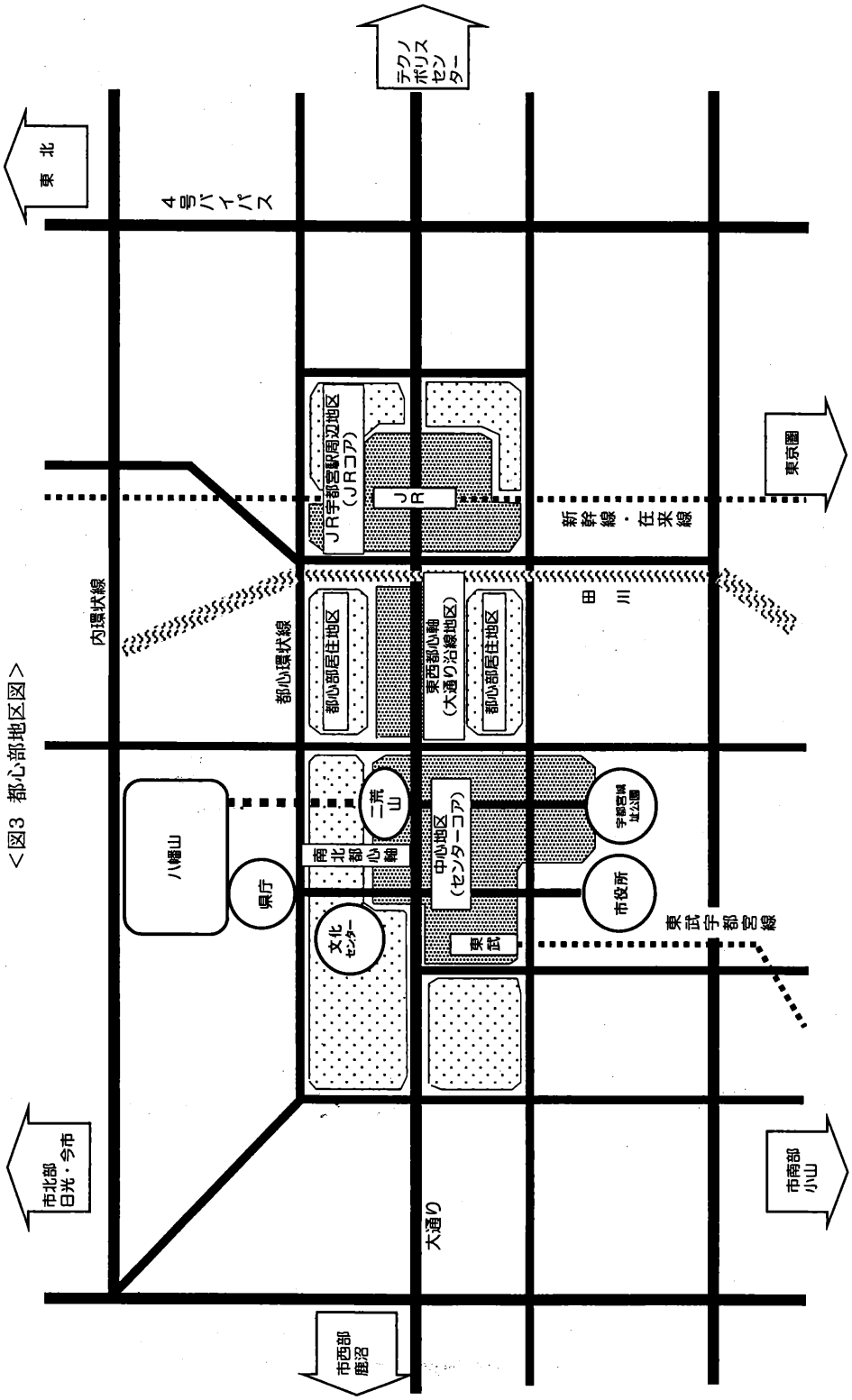
＜図４　交通ネットワーク図＞

（１）交通基盤整備

○公共交通機関を中心とするシステムづくり
・都市新バスシステムや新交通システムの導入　等
○都市の動脈づくり
・都心環状線，内環状線及び都心放射線道路等の整備　等
○広域の玄関口づくり
・交通結節機能の強化や交通・情報サービス機能の充実　等
○歩行者・自転車道ネットワークづくり
・快適かつ安全に回遊できる歩行者・自転車道ネットワークの整備　等

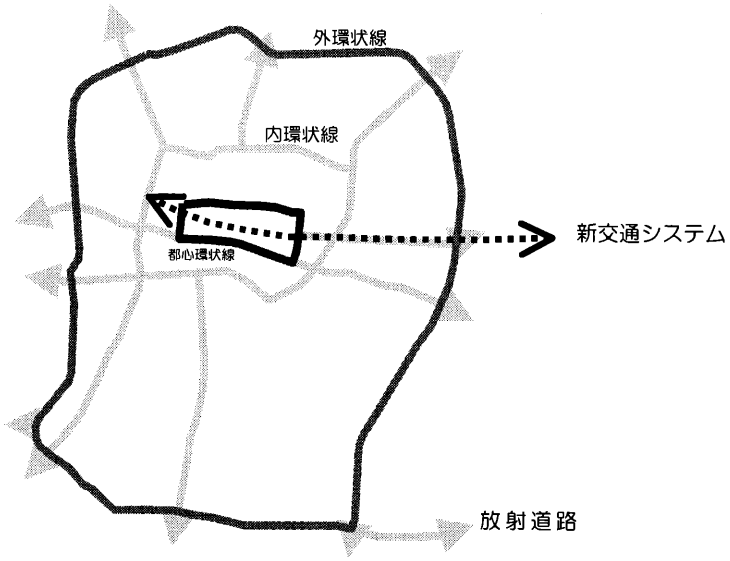
（２）情報基盤整備

○都市型ＣＡＴＶ等の「基幹的ネットワークの基盤整備」や，都市交通円滑化システム等の「ＩＴを活用した各種情報通信システムの導入」等を通した多様な情報ネットワークづくり

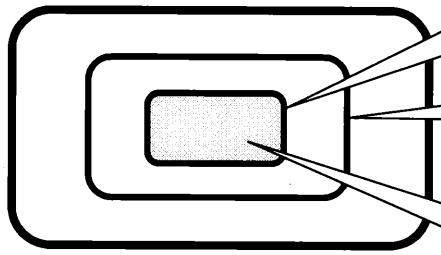


＜図3　都心部地区図＞

<図4　交通ネットワーク図>



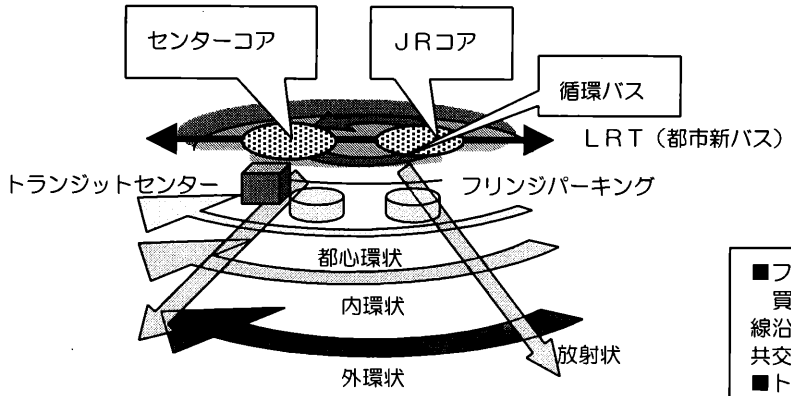
都心部を取り巻く道路体系整備イメージ



■都心環状線
　都心部から通過交通を排除するとともに，都心核を歩行者優先空間としていくため，基盤となる都心環状線の整備を進める。都心部周辺の渋滞を緩和し，都心部へのアクセス条件を高める。

■内環状線
　都心部へのアクセス条件を改善するため，内環状線の４車線化を推進する。

■歩行者優先
　都心部を歩行者優先空間としていくため，既存の道路ストックや地域に存在する資源を活用しつつ，歩行者・自転車ルートの整備を推進する。

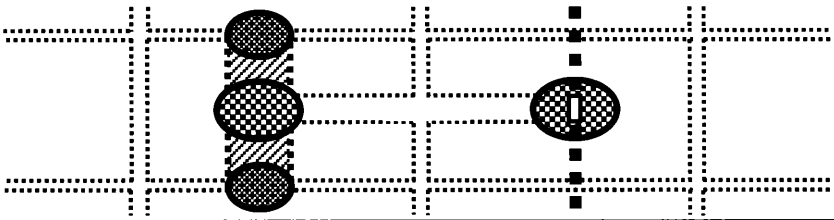
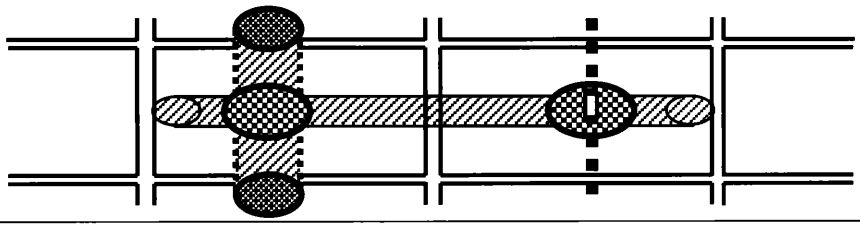
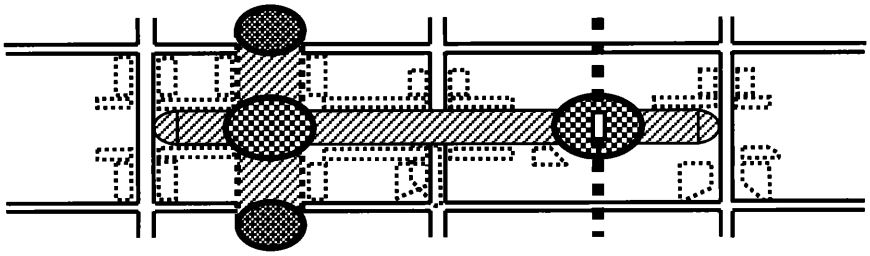


■フリンジパーキング
　買い物等長時間の駐車に対する都心環状線沿線の駐車場（そこから先は，徒歩や公共交通機関等でアクセス）
■トランジットセンター
　バスターミナル，駐車場，公共サービス施設等を併設した乗り継ぎ拠点

Ⅴ 全体整備スケジュール

都心部の再生には，大規模な都市改造，多額な投資，関係者の権利調整等を伴うことから，２０年から３０年程度の長期間を要することから，戦略的に整備を図っていく。

＜図５　整備スケジュール概念図＞

	狙　い　・　内　容
第一期（形成期）	（１）期間　概ね２０１０年頃 （２）ねらい ○センターコアとＪＲコアの都心核づくりを推進する。 ○南北都心軸づくりを推進する。 ○戦略プロジェクトの推進と居住環境を整備する。 ○都心核を支える交通基盤・情報基盤の整備と歩行者空間を確保する。 
第二期（発展期）	（１）期間　概ね２０２０年頃 （２）ねらい ○第１期で形成された都心核，南北都心軸をもとに，東西都心軸づくりを推進する。 ○東西交通基盤の抜本的な改造を推進する。 ○以上を通し，２１世紀にふさわしい都心部の骨格構造を完成する。 
第三期（成熟期）	（１）期間　概ね２０３０年頃 （２）ねらい ○都心骨格構造を生かし，新たな整備プロジェクトを展開し，中核都市宇都宮の目指す都心部を実現する。 

Ⅵ 戦略プロジェクトの抽出・実施

1　戦略事業の抽出

第１期として，都心核（コア）の形成を図るため，センターコア，ＪＲコアの整備を戦略プロジェクトとして優先的に推進する。

都心核には，都心部全体の活性化を図るための先導的な機能を整備する。

［先導的な機能整備］

○　センターコアを支える商業・文化・情報等の機能整備
　　馬場通り中央地区再開発事業，バンバ再生整備事業
　　釜川プロムナード活用事業，東武宇都宮駅周辺整備事業
○　ＪＲコアを支える新都市拠点としての交通結節機能，情報サービス機能等の整備
　　ＪＲ宇都宮駅東口周辺整備事業，ＪＲ宇都宮駅西口周辺整備事業
○　宇都宮のシンボル・交流軸としての南北都心軸の整備
　　歴史軸の整備事業，シンボルロード沿道整備事業
○　基盤整備
　　大通り公共交通軸の整備

2　戦略プロジェクトの実施

＜図６　戦略プロジェクト図＞

（１）センターコアを支える商業・文化・情報等の機能整備

○　馬場通り中央地区再開発事業

土地の合理的かつ健全な高度利用により，都市機能の更新と都市景観を創出する。
・文化・情報・交流等の機能の導入
・拠点広場の創出
・複合空間の形成　等

○　バンバ再生事業

本市の中心であるバンバ地区を，かつての賑わいを取り戻すため，再生を図る。
・歴史・文化・情報・交流等の機能の新たな導入
・商業拠点の整備・誘導
・飲食街等の整備・誘導
・拠点広場の創出
・大通り地下空間の活用　等

○　釜川プロムナード活用事業

釜川プロムナードを活用し，都心部の快適性や回遊性の向上を図る。
・プロムナードのアメニティ空間を生かす商業・飲食系機能の誘導
・地域によるプロムナードの美化の促進
※プロムナードとは，遊歩道，散歩道のこと。

○　東武宇都宮駅周辺整備事業

周辺の再整備を通じて，交通結節機能の強化や新たな集客機能の導入を図る。
・アミューズメント機能の導入
・オープンスペース（拠点広場）の整備
・交通ターミナル機能の整備･充実

（２）ＪＲコアを支える新都市拠点としての交通結節，情報サービス機能等の整備

○　ＪＲ宇都宮駅東口周辺整備事業

交通拠点，広域交流拠点，産業・情報拠点等としての機能充実による新都市拠点の形成を図る。
・新都市拠点形成を先導・支援する交通広場，多目的広場等の公共施設を民間施設とあわせて整備

○　ＪＲ宇都宮駅西口周辺整備事業

新たな機能の集積と更新を図り，広域玄関口として整備を図る。
・交通拠点として広場を創出
・市街地再開発事業などの推進による宿泊・商業・都心居住機能の導入促進
・駅西口の市有地，低利用地の有効活用

（3）シンボル・文化交流軸としての南北都心軸の整備

○　歴史軸の整備事業

二荒山神社周辺の市街地再開発と宇都宮城址公園を整備し，これらを結ぶ道路を宇都宮の「歴史軸」と位置づけ，歴史性と文化の薫る都市軸の形成を図る。

○　二荒山神社周辺の再整備
- 市街地再開発事業による都市機能更新
- 拠点広場の創出

○　宇都宮城址公園の整備
- 宇都宮城の歴史施設の復元を柱に，市中心部の貴重なオアシスとして，魅力ある本市のシンボル公園として整備する。

○　歴史軸の整備
- 沿道での歴史文化施設の整備，歴史環境の演出
- 沿道の街並み・景観の整備

○　シンボルロード沿道整備事業

シンボルロードを今の宇都宮の先進性を備えた重要な「都市軸」として，公共性とファッション性のある沿道の整備を推進するとともに，市民が気軽に交流できる施設等の整備を図る。

- 個性豊かな商店街の形成，誘導
- 沿道景観形成の誘導
- ポケットパーク等の街路空間の確保と演出
- 市民サービス，交流施設の整備　等

（4）都市基盤整備

○　大通り公共交通の整備

交通渋滞の緩和を図るとともに，良好な都市環境の保持，高齢化社会の進行への対応など，本市の社会環境変化を見据えた，公共交通の整備を図る。

- 都市新バスシステムの導入
  都市型トランジットセンターの整備，バス専用レーンの整備　等

3　事業化に向けて

（１）行政計画としての位置づけの明確化

戦略プロジェクト（政策プログラム）のうち優先度の高いものを第４次総合計画改定基本計画（平成１４年度策定）に計上する。

（２）戦略プロジェクトの事業内容の確立

戦略プロジェクトについて，関係者や関係機関と協議しながら，具体的な事業内容，整備手法，事業主体等を固め，行政活動にブレイクダウンした事業計画（アクションプログラム）を確立していく。

（３）事業の優先順位等

限られた財源を効果的・効率的に実施していくため，事業の優先順位等を十分に見極めて実施していく。

＜図6　戦略プロジェクト図＞

■宇都宮のシンボル・文化交流軸としての南北都心軸の整備

A1 歴史軸の整備事業
- ○二荒山神社周辺の再整備
  - ・市街地再開発事業による都市機能更新
  - ・拠点広場の創出
- ○宇都宮城址公園の整備
  - ・魅力ある本市のシンボル公園として整備
- ○歴史軸の整備
  - ・歴史文化施設の整備，歴史環境の演出
  - ・沿道の街並み・景観の整備　等

A2 シンボルロード沿道整備事業
- ○良好な街並み形成，景観形成の誘導
- ○ポケットパーク等の確保
- ○街路空間の演出
- ○市民サービス，交流施設の整備　等

■センターコアを支える商業･文化･情報等の機能整備

B1 馬場通り中央地区再開発事業
- ○文化･情報･交流等の機能の導入
- ○拠点広場の創出
- ○公共公益施設を取り入れた複合空間の形成　等

B2 バンバ再生事業
- ○歴史･文化･情報･交流等の機能の新たな導入
- ○商業拠点の整備･誘導
- ○飲食街等の整備･誘導
- ○拠点広場の創出

B3 釜川プロムナード活用事業
- ○プロムナードのアメニティ空間を生かす商業･飲食系機能の誘導
- ○地域によるプロムナードの美化の促進

B4 東武宇都宮駅周辺整備事業
- ○アミューズメント機能の導入
- ○オープンスペース（拠点広場）の整備
- ○交通ターミナル機能の整備･充実

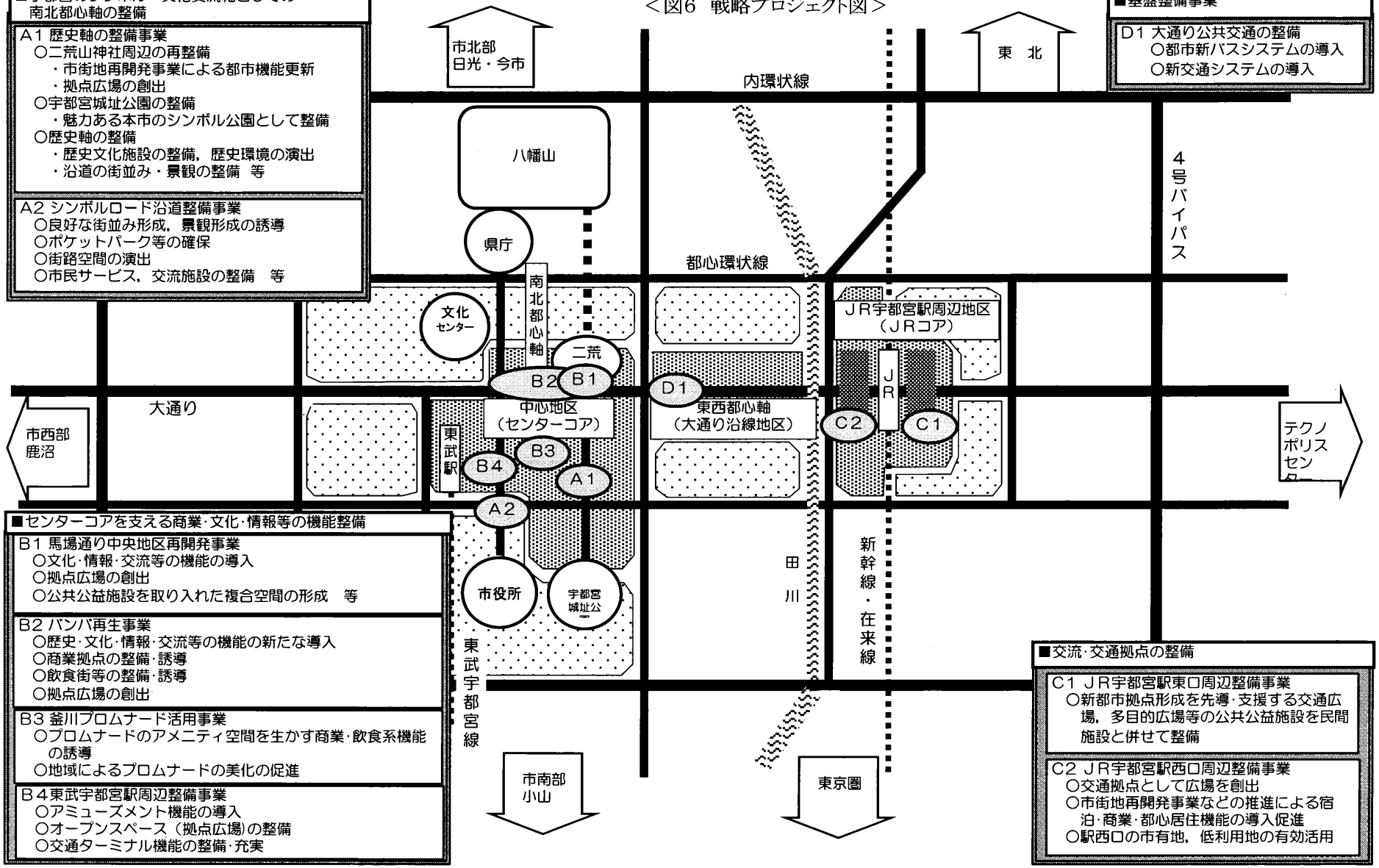
■基盤整備事業

D1 大通り公共交通の整備
- ○都市新バスシステムの導入
- ○新交通システムの導入

■交流･交通拠点の整備

C1 ＪＲ宇都宮駅東口周辺整備事業
- ○新都市拠点形成を先導･支援する交通広場，多目的広場等の公共公益施設を民間施設と併せて整備

C2 ＪＲ宇都宮駅西口周辺整備事業
- ○交通拠点として広場を創出
- ○市街地再開発事業などの推進による宿泊･商業･都心居住機能の導入促進
- ○駅西口の市有地，低利用地の有効活用



Ⅶ 都心部グランドデザインの効果的推進に向けて

1　市民，関係機関，事業者等の合意形成

都心部を再生するには，面（再開発），線（交通網等），点（拠点等）における公共公益基盤，施設の整備とともに，民間の活力を生かしたプロジェクトの推進が極めて重要である。

そのため，都心部の目指す姿，方向性，整備方針等に対し，行政，市民，関係機関，事業者等が共通理解，認識のもと，相互に連携，協力しながら推進していくとともに，適宜，進捗状況等の情報を公開していく。

2　推進体制の確立

都心部で展開する事業等を効果的に推進していくためには，宇都宮商工会議所を中心とする「宇都宮タウンマネージメント機関」，公共と民間が一体となった「宇都宮まちづくり推進機構」，「行政」が適切な役割分担のもと，一体的に推進していかなければならない。

（1）宇都宮タウンマネージメント機関（ＴＭＯ）

商業活性化の核となる組織であるＴＭＯは，地元商業者や市民と連携しながら，活性化事業の企画・立案・実施，人材育成，広報活動等を行う。

（2）宇都宮まちづくり推進機構

宇都宮まちづくり推進機構は，都心部におけるまちづくりを推進する中核組織として，まちづくり事業の総合的な協議，調整を行い，一定の方針，方向づけする組織として，また，事業主体となってまちづくりを推進する。

（3）行　政

市は，宇都宮まちづくり推進機構と一体となって事業を推進するとともに，公的支援を含めた都心部活性化に関する企画立案，情報の収集，国・県等の対外的窓口となる。

3　集中的かつ総合的な事業展開

事業の選択，実施にあたっては，事業の緊急性，重要性，財源性（補助等を含む），地区の熟度等を踏まえ，集中的かつ総合的な事業展開を図ることにより，事業相互の一体的，効果的な事業展開を図る。